

平成23年度第1期女性のための教養講座～女性大学～ 社会とつながり、心豊かに 開催結果の概要

月日	演題	講師
5/24 (火)	「親育ち」どういうこと？	北星学園大学社会福祉学部福祉計画学科准教授 河野和枝
5/31 (火)	北海道開拓と北前船	小樽市総合博物館元館長 土屋周三
6/7 (火)	北海道のシマフクロウ	札幌大学法学部法学科准教授 早矢仕有子
6/14 (火)	映画が教える女の生き方	北海道大学大学院文学研究科准教授 瀬名波栄潤
6/21 (火)	認知症の診断と対応	北海道医療大学心理科学部臨床心理学科教授 中野倫仁
7/5 (火)	少子化は誰かの「せい」なのか ～而立・不惑と女性	札幌学院大学法学部法律学科准教授 嶋田佳広
7/12 (火)	花のお江戸の暮らしと風俗	歴史考証家 岸本良信
7/19 (火)	台頭する中国とどう向き合うか	北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授 遊川和郎
7/26 (火)	地上の天宮 北京・故宫博物院展	北海道立近代美術館学芸第三課長 中村聖司
8/2 (火)	現在（いま）を知る	北海道新聞社論説委員 佐々木政文

平成23年5月24日（火）



「親育ち」どういうこと？

北星学園大学社会福祉学部福祉計画学科准教授 河野和枝

家庭の教育力が低下していると言われていますが本当にそうでしょうか。講義では、資料を用いながら、世界一寂しさを抱えている日本の子どもたちの現状や家庭教育をめぐる最近の動向についてお話いただきました。また、事例を挙げながら、「親性」を獲得するには「親育て」と「親育ち」の両者が必要であること、そして、家庭の教育力は親だけに任せられるものではなく、人間的つながりを地域でつくる必要があるとお話いただきました。

平成23年5月31日（火）

北海道開拓と北前船

小樽市総合博物館元館長 土屋周三

木造で弱く、小型でスピードも遅い。そんな船体的特徴を持つ北前船が北海道の基礎を作り、文化を創りました。講義では、北前船の誕生や特徴について説明いただくとともに、北海道開拓の基礎を物流面で支え、物資と共に関西文化も運んできた北前船の活躍についてお話いただきました。また、私たちが生きているその姿が文化であり、誇りを持って文化を継承していくことが大事とのお話をいただきました。



平成23年6月7日（火）



北海道のシマフクロウ

札幌大学法学部法学科准教授 早矢仕有子

フクロウの仲間には珍しく魚類を主食とするシマフクロウ。かつては札幌や函館、帯広を含む北海道ほぼ全域に広く分布していましたが、現在は日本でもっとも絶滅が心配される鳥類です。講義では、DVDを用いながらシマフクロウの生態について説明いただくとともに、個体群の衰退の原因や国による保護事業の内容などについてお話いただきました。そして、生息環境の復元がシマフクロウの保護の課題であるとお話いただきました。

平成23年6月14日（火）

映画が教える女の生き方

北海道大学大学院文学研究科准教授 瀬名波栄潤

アメリカのハリウッド映画は日本や他の国で起こっている様々な問題や課題に気づきを与えてくれます。講義前半では、女性の権利をめぐる欧米のフェミニズム運動の歴史や国連の動きなどについて、講義後半では、5本の映画を取り上げ、そこに描かれている様々な女性の姿についてお話いただきました。そして、女性の生き方も多様であると受け止めることが大切であり、選択肢がたくさん与えられている中で自分自身の人生を豊かにしてほしいとお話いただきました。



平成23年6月21日（火）



認知症の診断と対応

北海道医療大学心理科学部臨床心理学科教授 中野倫仁

今年になって新しい認知症治療薬が登場し、認知症の予防、治療に関心が集まっています。講義では、アルツハイマー型認知症の危険因子や予防因子、アルツハイマー病とうつ病の関係性、現在世界で使用されている抗認知症薬の特徴、認知症に対する非薬物療法などについて説明いただきました。そして、現在の治療は発症後には限定的効果があるが発症前に投与した場合の効果は不明であり、発症を防ぐための対策が望まれるとお話いただきました。

平成23年7月5日（火）

少子化は誰かの「せい」なのか～而立・不惑と女性

札幌学院大学法学部法律学科准教授 嶋田佳広

2005年、戦後初めて日本の人口が減少に転じました。講義では、世帯規模の縮小や出生率の低下が見られる現状の確認をするとともに、少子化対策などについてお話いただきました。そして、少子化は先進国共通の現象であるが、日本の問題はその進行が急激なこと。「ある程度」のレベルに落ち着くように考えることが大切で、そのためには社会の中で女性を支え活かし切れるよう差別的な慣行をやめ、自分たちの意識を変えていくことが求められるのではないかとお話いただきました。



平成23年7月12日（火）



花のお江戸の暮らしと風俗

歴史考証家 岸本良信

江戸っ子の暮らしには便利なものはありませんでしたが、明るく、楽しく暮らしていました。講義では、江戸時代に庶民の知的娯楽だった謎解き「判じ絵」を実際に考えてみるとともに、DVDを見ながら、古き良き時代のシンプルライフを紹介いただきました。そして、江戸時代の人は小さなことにこだわらなかった。今の日本人は忙し過ぎるし、杓子定規過ぎるのではないかと話いただきました。

平成23年7月19日（火）

台頭する中国とどう向き合うか

北海道大学大学院IT・コミュニケーション研究院准教授 遊川和郎

日本を抜いて世界第二の経済大国になった中国の台頭は何をもたらすのでしょうか。講義では、中国経済の躍進の背景や中国の考える国際社会における原理原則などについて話いただきました。そして、中国にとってのグローバル化とは、既存の国際標準に合わせるのではなく、国際ルールを中国基準に合わせて作り替えること。中国の台頭で国際秩序にも変化が出てくる。日本は中国の行動様式を把握したうえで、冷静に世界の中の中国を捉えることが必要と話いただきました。



平成23年7月26日（火）

地上の天宮 北京・故宮博物院展

北海道立近代美術館学芸第三課長 中村聖司

北海道立近代美術館の講堂にて、特別展「地上の天宮 北京・故宮博物院展」について作品等に関してのお話をいただきました。また、講義後は各自にて特別展を自由観覧。北京・故宮博物院（紫禁城）に所蔵されている明・清両宮廷ゆかりの絵画、工芸、服飾、宝飾などの国家一級文物を含む名品約200点を通して、后妃や宮女など故宮に生きた女性たちの鮮烈な生の輝きに照らされて浮かび上がる「地上の天宮・紫禁城」の魅力をお楽しみいただきました。



平成23年8月2日（火）

現在（いま）を知る

北海道新聞社論説委員 佐々木政文

政治、経済、国際報道など、世の中の動きや出来事を読み解き、考え、提言する「社説」。講義では、サッカーの女子ワールドカップドイツ大会でのなでしこジャパン金メダルの快挙や、宇宙開発の歩みにひとつの時代を築いたスペースシャトルの退役を伝える社説、その他数々のコラムを取り上げながら時事解説をしていただくとともに、社説がつけられるまでの裏話などを交えながら、新聞社や論説委員の仕事についても話いただきました。

